

平成23年度第3回中原区区民会議

日時 平成23年10月19日（木）14：00～

場所 中原区役所 5階 502・503会議室

午後 2 時 開 会

1 開会

司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから平成23年度第3回中原区区民会議を開催させていただきます。

本日の会議の議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます副区長の石澤でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日でございますけれども、潮田参与、東参与、吉岡参与、滝田参与、田島参与、日浦参与、それぞれの参与からは所用により欠席の連絡をいただいているところでございます。

初めに、中原区長の小野寺よりごあいさつを申し上げます。

区長 皆さん、こんにちは。中原区長の小野寺でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、大変お忙しい中、中原区区民会議にご出席いただきまして本当にありがとうございます。先ほどから事務局のみんなと話をしていたんですけども、中原区の委員の皆様はいつもいつも全員出席というような形で、よっぽどのことがない限りは欠席しないで、区民会議を大事にいただきまして本当にありがとうございます。また、参与の方々におかれましても、本日お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

さて、先日16日に中原区の33回目の区民祭が行われました。当日の明け方まで雨が降っておりまして、大変心配しましたが、やはり日ごろの私たちの行いがいいというふうに解釈しているんですけども、晴天に恵まれまして盛況に終えることができました。本当にこれにつきましても、皆様方にいろいろとご協力いただきまして感謝申し上げたいと思います。日々いろいろな行事は続いているんですけども、実はこれから先なんですけど、あさっての10月21日、区のウッドデッキを使った区民会議の皆さんの提案による子育てふれあいカフェが行われます。そしてまた、30日には第1回のふるさと交流フェスティバルが行われますし、11月5日には3月11日の東日本大震災を受けて新たに区といたしましても力を入れていこうということで防災フェアを、警察、消防等の方々とも協力して行います。そして、19日には「福祉健康まつり」、26日には「なかはら子ども未来フェスタ」など、今挙げたのは区民会議にかかわるような行事を述べさせていただきましたけれども、それ以外にもスポーツ関係、いろいろ目白押しになっております。これを機会に地域の皆さん方とつながり、さらに中原のパワーを発揮していただけたらと思っております。

さて、本日は今期の3つ目の検討テーマであります「中原区制40周年を迎えて」につきましましてこれからご審議いただくところでございますが、現在区といたしましては、40周年の記念写真集の編集に向けて、担当の者を中心に全力を注いでおります。地域の方々からも大変懐かしい写真をたくさん、本当に貴重な写真を提供していただきまして、それに基

づいて編集会議を開いているということで、順調に進んでおりまして、ぜひ皆様方も楽しみにしていただけたらと思っております。同時に区といたしましても、来年度40周年を迎えるに当たってどういうふうな形で皆様とお祝いすることができるかということ、いろいろな日々行われている行事につきましても、事業につきましても検討を重ねているところでございますが、ぜひ区民会議の皆様方においても、行政と一緒にどんなことができるのか、また、どのようなことで取り組むことでこの区制40周年を祝う1つの区切りにできるのかなということ、これからの審議を楽しみにしておりますし、よろしく願いしたいと思っております。

後のほうではお話ができないので、最後に一言お話ししたいと思うんですけども、寒さが一段と厳しくなってきましたと同時に、また暑くなったりということで、1日の中でも寒暖の差が激しいです。毎日毎日寒さ、暑さが繰り返します。私どもの中にも風邪を引いて咳込んでいる者もいるんですけども、どうぞ皆様方もお体をご自愛くださいませ、何とか魅力ある中原のためにご尽力いただけたらと思っております。

きょうはまた、よろしく申し上げます。

司会 本日の会議でございますけれども、委員の皆様全員が出席いただいております。川崎市区民会議条例第6条第2項に照らしまして会議が成立しておりますことを申し上げるとともに、会議公開条例に基づき本日の会議は公開で行われます。また、会議録を作成いたしまして公開することになりますので、ご了解をいただきたいと存じます。

まず初めに、事務局より、お配りしております資料の確認をさせていただきます。

事務局 事務局の綱島でございます。では、座って説明をさせていただきます。

まず最初、区民会議の次第でございます。

続きまして、別添1といたしまして、席次表でございます。続きまして、別添2、委員及び参与名簿でございます。

続きまして、議題資料といたしまして、資料1、子育て応援アンケート調査日程調整が3枚ございます。

続きまして、資料2といたしまして、区民会議における区制40周年の取組みについて(案)でございます。これは1枚でございます。

続きまして、資料3-1、区制40周年アンケート集計表(個別)なのですが、4枚ございます。そこで1点、訂正がございまして、最初の1ページ、資料3の1ページの4番目の吉房委員の一番左のところなのですが、人口が29万と書いてございますが、これを申しわけございません、23万に訂正をお願いいたします。またもとに戻っていただきまして、資料3-2、区制40周年アンケート集計(類型別)が1枚でございます。続きまして、資料3-3、区制40周年アンケート集計(区民祭)でございます。これが1枚でございます。

続きまして、資料4、課題調査部会について、A4、1枚の資料でございます。

続きまして、参考資料でございます。まず、参考資料の1-1といたしまして、平成22年度「中原区協働推進事業」一覧表でございます。これが裏表でございます。続きまして、参考資料1-2、平成22年度中原区協働推進事業事業評価書でございます。これは両面にわたってございます。続きまして、参考資料1-3、平成24年度「中原区地域課題対応事業」計画一覧表でございます。これは裏表でございます。

続きまして、資料番号は振ってございませませんが、最初に、平成23年度第1回中原区区民会議地域課題対応事業検討部会会議録でございます。これが2枚でございます。続きまして、平成23年度第2回中原区地域課題対応事業検討部会会議録でございます。これが両面にわたって2枚ございます。

続きまして、平成23年度第2回中原区区民会議運営部会会議摘録をつけさせていただいています。これが2枚でございます。

次に、そのほかといたしまして、これまでご審議いただきました子育て応援体制づくりアンケートを1枚添付してございます。

続きまして、新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」第2期実行計画（平成20～22年度）の実施計画について御意見を募集しますという案内でございます。後ろに実施結果総括（抜粋）をつけさせていただいております。

それと、先ほど区長から申し上げました各種イベント等のチラシがございます。子育てふれあいカフェ、中原区健康づくり推進会議からのメッセージ、歯とおどろく！ HAHHA教室、10月30日のふるさと交流フェスティバル、11月26日の第6回なかはら子ども未来フェスタ、中原区環境ミーティング、平成23年中原区防災フェアとなっております。司会 資料についてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これからの進行につきましては委員長にお願いしたいと存じます。それでは、鈴木委員長、よろしく願いいたします。

鈴木委員長 それでは、改めまして、皆様、こんにちは。先ほど区長がおっしゃったように天候が大変不順で、きのうは暑かったのに、きょうは大変寒いようなお天気ですので、お体、本当に気をつけていきたいと思えます。

さて、それでは、次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思えます。

2 会議録確認委員の選任

鈴木委員長 まず、会議録確認委員の選任でございます。前は富岡委員と藤嶋委員にお願いいたしました。名簿の順で恐縮ではございますけれども、今回は松原委員と松本委員にお願いしたいと思えます。よろしく願いいたします。

3 議題

(1) 地域課題対応事業検討部会及び第2回運営部会の報告

ア 地域課題対応事業検討部会

鈴木委員長 それでは、7月25日と10月6日に開催されました地域課題対応事業検討部会につきまして、部会長でございます杉野副委員長から報告をお願いいたします。

杉野副委員長 それでは、ご報告申し上げます。7月25日に1回目の部会が行われました。これは推進事業の評価ということでございます。2回目といたしましては、10月6日に平成24年度の地域課題対応事業の計画について報告を受けるという部会でございます。

詳しいことはお手元に会議録があると思いますので、ご参考いただければと思います。

1番目といたしまして、7月25日の部会でございます。事務局から22年度実施した事業について、本日配付されています参考資料1-1、1-2に基づき説明を受け、審議を行いました。各委員からは、おおむね妥当であるとのご意見をいただきました。各委員から出された主な意見やコメントについては簡単に報告させていただきます。

参考資料1-1をご覧ください。実施結果一覧表、II-1、幸せな暮らしを共に支えるまちづくりで実施されましたなかはらパンジー体操事業についてでございます。パンジー体操は高齢者にとって難しい体の動きを要求することもあります。さまざまな工夫をしながら普及に努めてもらいたいとのご意見がございました。

次に、実施結果一覧表III-6、中原区子育て支援推進事業については、子育てサロンを週末に開催すれば父親の育児参加にも役立つのではないかと、また、サロンを卒業したお母様方が地域の子育ての担い手として活躍できるような取り組みも必要であるとのご意見をいただきました。

また、資料の裏面に参ります。VII-6、区役所サービス向上事業については、区民の意見を取り入れながら、引き続き区役所サービスの向上に取り組んでももらいたいとのご意見がございました。

以上のように、事業全体、事業の方向性など協働推進事業について活発な議論をいたしました。

10月6日に行われました部会でございます。参考資料1-3、大判の紙を折ったものです。平成24年度実施計画について事務局から説明がありました。各委員から出された主な意見やコメントについては簡単に報告させていただきます。詳細は議事録をご参照いただきたいと思います。

事業一覧表のI-5、中原放置自転車対策事業【区民会議議題】について、武蔵小杉駅周辺は駐輪場の整備が進んだこともあり、放置自転車が減少しているが、武蔵新城駅や元住吉駅周辺はまだ放置自転車が多いため対策に取り組んでももらいたいというご意見がございました。

事業一覧表III-6でございます。中原区子育て支援推進事業について、中原区にとって子育て支援施策は全般的に重要であり、今後も力を入れて取り組んでももらいたいというご

意見がございました。

24年度の裏面でございます。事業一覧表のV-5でございます。中原区役所コンサート開催事業については、開催場所を区役所以外にも広げ、区役所には足を運びにくい区民がコンサートを楽しむ機会を提供してほしいとの意見がございました。

事業を実施する際には、ただいま報告いたしました地域課題対応事業検討部会での審議結果を参考としていただきますようお願いしたいと思っております。

以上でございます。ありがとうございました。

鈴木委員長 次に、参考資料1に中原区の平成22年度の事業評価と平成24年度の事業計画が示されています。区の事業について確認していただければと思います。

イ 運営部会

鈴木委員長 次に、9月16日に開催されました第2回運営部会につきまして、副部長である杉野副委員長から報告をお願いいたします。

杉野副委員長 では運営部会でございます。9月16日に開催し、詳細は議事録をご参照いただければと思います。

課題としては3つございました。1番目といたしましては、区民会議の区民祭へのかかわりについて、2番目として、今期の第2のテーマでございます地域における子育て応援体制づくりにおけるアンケートの実施方法、3番目といたしましては、第3のテーマでございます「中原区制40周年を迎えて」について区民会議の取り組みについて検討を行いました。

1番目の区民祭へのかかわりについては、区民の方にもっと区民会議を知ってもらうことが必要であるとのことでは意見が一致していましたが、区民祭の参加に当たっては、区民会議委員も区民祭にそれぞれ独自で参加されている方が多く、どのようにかかわれるのかということを含め、各委員に意見をあらかじめ求め、その結果をもとに区民会議の中で諮っていくこととされました。

次に、地域における子育て応援体制づくりのアンケートと区役所ウッドデッキでの事業について審議しました。アンケート調査については、いらした方全員に行うということはなかなか不可能なことでございますので、できる範囲で行うこととし、期間も12月までとしました。また、対象を3カ月児、1年6カ月児、3歳児の健康診査にあわせて実施することとし、健診の流れを止めないようにすることが必要とされました。調査に当たっては、クリップボードなどを用意し、参加する区民会議委員は名札をつけることとしました。この中で21日に実施する区役所ウッドデッキでの子育てふれあいカフェについても報告が行われ、アンケート調査を行う際には、屋外でもあり、安全面の確保が必要との意見がありました。区民会議委員も積極的に参加し、場を盛り上げることはもちろんのこと、アンケートの配布、回収、警備などの役割を分担しながら協力することとされました。調

査体制を確認するため、各委員の参加できる日にちの把握が重要とのことで、前もって日程調整を行い、区民会議で調整を諮ることとされました。資料としてお配りしてございます。

次に、「区制40周年の取組」についてでございますが、区民会議も第3期から第4期に移ることであり、1つの区切りとしてこれまでのことやこれからのことを考えてみていいのではないかという意見もございました。また、余り費用をかけないで、音楽祭などのイベントや講座など、また、若い人が多く参加し、意見が聞けるようなイベントの実施などが提案されました。この中で市民報告会についても審議され、多くの区民が参加できるような企画も必要とされ、中原をよく知る人をパネリストとして、わかりやすく、おもしろく中原を話せるような人をコーディネーターにシンポジウムもいいのではないかというような提案もありました。

区制40周年については各委員にも意見を聴取するとのことで、アンケートを行うこととし、その結果をもとに区民会議の中に諮っていくこととしました。

以上が運営部会の審議内容でございます。どうもありがとうございました。
鈴木委員長 杉野副委員長、2つの部会の報告、ありがとうございました。

ただいまの杉野副委員長の報告にありましたように、運営部会では地域における子育て応援体制づくりに関するアンケート調査の方法、区役所ウッドデッキでの取り組みについて審議し、確認しました。ただいまの両部会の報告についてご意見などございましたら、皆様からお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。ご意見のある方は挙手願いたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(2)「地域における子育て応援体制づくり」のアンケート調査

日程確認及び調整

鈴木委員長 次の議題でありますアンケート調査につきまして審議したいと思います。

配付されていますアンケート用紙を使いまして、区民会議委員が健康診査を終えた保護者に調査を行うことにしましたが、今回3カ月児、1歳6カ月児、3歳児の健康診査にあわせて調査を行うに当たりまして、委員の日程調整を諮りたいと思います。

資料1で皆様から事前に参加できる日をいただいております、示しておりますけれども、各委員の皆さんご自身でご確認をお願いいたします。マルが記載されている日ですが、間違いはございませんでしょうか。あるいはその後、ちょっと予定が入ってだめになったとか、この日がいいとかというのがありましたらお願いいたします。いかがですか。

では、事務局でチェックをお願いいたします。

寺岡委員 10月21日、ちょっと予定が入ってしまいました。

杉野副委員長 私は11月10日とありますけれども、研修会が急遽入ってきまして、これを

11月18日に。

富岡委員 11月18日は、予定が入ってしまいましたので欠です。

藤嶋委員 11月5日は、用事が入りましたので、18日（金）は大丈夫です。

青木委員 10月21日は、マルです。

鈴木委員長 ほかはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

鈴木委員長 もしこの後、変更がございましたら、事務局に連絡をお願いいたします。調査を実施するに当たりましては、お子さんを抱えている中で実施することになりますので、健康診査に支障がないように済んだ方を対象にアンケート用紙を渡していただくとともに、お子さんを見ている必要があるかもしれませんので、当日は最低4名は必要ではないかと思います。資料1の右肩の数字が参加できる人数となっていますけれども、10月20日が1名ですね。11月は1日が3名、15日は1名ですよね。12月は2日が3名で13日が2名となっております。今からまだ予定はわからないと思いますけれども、参加できそうだという委員の方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、もし可能になりましたら事務局にご連絡をお願いいたします。皆さん忙しいですので、できる範囲の中でやっていきたいと思いますので、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

鈴木委員長 それでは続きまして、運営部会でも話し合いました区役所ウッドデッキでの子育て応援体制づくりに関してですが、この件につきまして子育てふれあいカフェと書かれた黄色いチラシがございます。区民会議提案として実施されるもので、10月21日の3歳児健診のときに実施されます。この事業の提案者である反町委員から説明をお願いいたします。

反町委員 それでは、皆さん、お手元がございます子育てふれあいカフェ、黄色いチラシをごらんください。開催日はあさってでございます。3歳児健診にお越しになった方々に向けて、健診を終えられてから、そのままこのイベントに参加できたらということで、交流を促進させるための手法としてカフェを設置するということです。そこで今回、出演者は2組手配しました。急ピッチで進めたイベントでして、実はこのチラシが完成した段階ではまだ出演者が決まっていなかったところもありまして、掲載がされていないんですが、2組出演をされます。出演者の方は1組目が村上通さんという男性のシンガーソングライターの方ですが、中原区在住の方でありまして、今回カフェの音楽に最適なBGMとして聞いていただけるようなピアノ演奏だったり、落ちついた感じの歌であったり、そういったものを演奏いただける方です。

もう1組は子ども向けの内容、担当ということで、まつもとなみさんという女性の方でして、この方は歌のお姉さんみたいなイメージを皆さんしていただけたらと思います。歌も歌えますし、子ども向けの遊びができる方で、得意としております。きょう持ってき

たんですが、具体的に子ども向けの遊びといっても、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、ペープサートというものがあまして、紙人形なんです。すごくいろいろな種類があまして、子ども向けの保育園とか幼稚園とかに携わっている方はご存じだと思うんですが、すごくいろいろな遊び方ができるんです。今回予定しているのがウサギとカメのお話なんですけれども、この2つで人形のようにお話を展開したり、あるいはお話というほど長い話でなくても、子どもたちのほうへ行って、例えば子どもにクイズをしてみたりとか、いろいろな使い方ができるのがペープサートです。今回このペープサートのウサギとカメのお話をやっていただく予定です。

通常のイベントですと、コンサートを行う場合、普通は時間をきっちり決めてやると思うんですが、集客の状況がまだ見えないということで、今回出演者の皆さんにはお客さんの状況に応じて、それに合った内容のものを臨機応変に対応していただく約束をしております。もし客席に子どもさんが少ないようでしたら、こういうペープサートとかを持って、触れ合っていたり、子どもたちがたくさん集まっているようでしたら、子どもたちをステージのほうに集めて聞かせたり、見せたりできるようなお話とかを考えております。

もう1つ、今回、岡本委員のご協力をちょうだいいたしまして、幼児食の試食ということでメニューが書いてありますが、煮干しのおやつとマカロニあべ川を配布をしていただくことになっております。

今回初めてということで、天気若干不安があるんですが、何とか晴れて、皆さんに喜んでいただけるような形で目的が達成できればと思っております。

以上でございます。よろしく申し上げます。

鈴木委員長 区民会議委員は、8名参加できることになっておりますけれども、ほかの委員の方もご都合がよろしければ、何分屋外ですということ協力を整えたいと思っておりますので、ご参加くださるようお願いいたします。

鈴木委員長、1時半から4時になっているんですが、我々は何時までに着けばよろしいですか。

反町委員 イベントの準備は11時半からさせていただくと思うんですが、皆様、大変お忙しいと思います。イベント自体は1時半からですので、1時ごろにお越しいただければ十分かと思います。

鈴木委員長 それでは、1時ぐらいまでに来てくださればよいということですので、8名以外にもご都合のいい方がございましたらご参加くださいますようお願いいたします。

今後、ウッドデッキを使って実施する予定はありますでしょうか。

事務局 市民提案型事業というのがございまして、今年度第2回目の事業といたしまして、区役所ウッドデッキを使った子育て応援体制づくりという形で団体を募集させていただきました。その結果、「地域ふれあい“つきやまサロン”」と「チーム等々力」という2

団体がこのウッドデッキを使った子育て応援体制づくりを行うことになりました。つきやまサロンにつきましては、10月31日のポリオの日、それと月曜日の1歳児の歯科健診の11月14日と12月12日、年が明けまして、1月16日、2月13日、3月12日にやっていただく予定でございます。また、チーム等々力につきましては、11月26日に子ども未来フェスタがございますので、その中で子育て応援体制のイベントをやっていただくこととしております。委員の皆様も、お忙しいかと存じますが、ご都合がつく限りご参加いただければと思います。

事務局からは以上でございます。

鈴木委員長 ウッドデッキを使った事業というのは、これからもっともって増えてくると思いますので、私たちも協力できる日がありましたら、ぜひみんなで応援していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

何か今のことにつきましてご意見はございますでしょうか。今の市民提案型事業についての反町委員の説明に質問などございましたら受けませんが、いかがですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

鈴木委員長 それでは、ご意見がないようですので、とにかくみんなで協力していくということで確認したいと思ひます。

(3) 第3のテーマ「中原区制40周年を迎えて」

ア 区制40周年の取組

鈴木委員長 次に、第3のテーマであります「中原区制40周年を迎えて」について審議してまいりたいと思ひます。

今回のテーマを考えていくために、各委員からアンケートをいただいております。皆さん、ご自分で出したアンケートはもちろんのことなんですが、ほかの方のアンケートの提案にもお目通しをお願いいたします。

まず、このアンケートを踏まえてどのように生かしていくべきなのか、資料2の取り組みの考え方について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは、事務局から区民会議における区制40周年の取組について（案）ご説明させていただきます。資料2をごらんいただきたいと存じます。

まず、これまでの区の周年事業の主な取り組みでございます。左上のほうに書いてございますように、まず20周年ではシンボルマークの制定を行いました。本日の区民会議の看板に書いてあります中原のマークでございます。また、25周年には区の花パンジーの制定を行いました。また、30周年につきましては、なかはらの歌「この街のどこが好き？」と区誌といたしまして「わたしたちの中原」を作成しております。

40周年につきましては、現在写真集の作成を考えておまして、編集委員会を立ち上げて進めているところでございます。このような中、今後、区民会議といたしまして区制40

周年をどのように位置づけていくのかが検討していただくことになると思われま

そこで、区民会議としての取り組みのⅡで区制40周年の位置づけを示しております。その中で、気運を高めて、区民会議として振り返りを行い、次につなげることを意義としているところでございます。そして、区民会議として取り組んでいくために少し絞り込むことも必要と考え、テーマ設定を提起してございます。

次に、Ⅲ 取組の方向性を示してございます。無理なく行うことができるものであること、それと残すことや生かせるもの、地域の活用、地域に根差したものの、また、負担にならないこと、費用対効果の関係などを考えることを挙げております。

各委員の皆様のご意見を踏まえまして、次のⅣではアピール性ですとか、一体感が生まれるような取り組みが必要であるということから、既存の制度の活用ですとか、地域の活動の中でアピールできるような取り組み、また、ネットワークを活用するといった取り組みなどについて検討することが必要ではないかと考えているところでございます。また、区民会議として市民報告会をうまく活用できればと考えております。市民報告会は来年の5月13日(日)を予定していますが、このことについてもご提案をいただき、調整を図っていければと思っているところでございます。

そして、Ⅴなんです、各委員の皆様からの意見の類型をお示ししております。こうした観点を踏まえまして、今回委員の皆様から提案された意見を含め、課題調査部会で集約できればと考えているところでございます。

事務局からは以上でございます。

鈴木委員長 ただいまの事務局からの報告に何かご質問ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

鈴木委員長 質問がないようでしたら、資料3-1を見ながら各委員からの意見、それぞれの考えを話していただきたいと思っております。皆様、一覧表には随分いろいろな意見が出ておりますけれども、文章だけでなく、もっと内容を説明したいという方がいらっしゃいましたら、まず、そちらから先に伺いたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

鈴木委員長 一番最初に載っています1番の寺岡委員の地域活性化支援、安心・安全なまちづくりということで提案してございますけれども、寺岡委員、いかがでしょうか、ご説明をお願いいたします。

寺岡委員 私は地域活性化支援ということで掲げてもらったのは、川崎市でいろいろな表彰とか認定。例えば川崎ブランドというような認定もされていらっしゃるんですけども、こういった商品というか、製品を含めて、まだ余り知ってみえる方が少ないのではないかと思いますので、この機会を通じてそういった製品なり商品なりを販売できるものもあるし、できないものもあると思うんですけども、こういったものをぜひ展示していただいて、中原区でどういう製品、商品があるか、ひとつ知っていただいて、もう少しそれを利

用し活性化にお役に立てればということで提案させてもらいました。

安心・安全のまちづくりに関しては、今年5月までに住宅用火災報知器の設置が義務付けられましたけれども、結果、どういうふうになっているかというようなことも、ぜひこれを機会に、区民の皆様にご報告していただけたらありがたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

鈴木委員長 それでは、山川委員、いかがでしょうか。

山川委員 私は素朴な意見で申し上げたいのですが、商業施設の充実、ぶらっと入れる飲食店は多いのですが、おいしいな、こういうところで食べたいなという少し高級な飲食店が非常に少ない。先日、寿司を食べたいなと思って探したら、カウンターでやる寿司屋が非常に少ないようなことがありました。

次に、子ども野球場がないということ。子ども野球の専用球場がない。多摩川河川敷はあるのですが、大師なんかは子ども野球場がちゃんとあります。麻生区でいくと虹ヶ丘とか専用球場があって、すばらしいなと思いましたので、ぜひ等々力に子どもだけの専用球場が欲しいなと思いました。大会の決勝とか、いろいろな大会をやる場合ですね。

次に、自転車専用道路をつくったらいかがかなと。ヨーロッパなんかへ行くと自転車走って、それから歩道があって、車道と全部3つに分かれているんですよ。自転車が走る場所は歩いてはいけませんよというふうに行われているんです。そうすると、事故も少なく、いいなというふうな素朴な意見です。日本は非常に狭いですから、どうかなと思いますけれども、自転車が専用で走るところが必要かなと思いました。

町医者が何軒かはあるんでしょうけれども、非常に少なくなって、大病院から今度は町医者で治療してくださいとよく言われる。そうすると、町医者を探すのに非常に少ないという素朴な意見でございます。

鈴木委員長 ただいまの山川委員の自転車専用道路とか医療施設というのは、40周年に関係なく、広範な枠、別な枠で考えていかなければいけないご提案に思いました。

それでは次、藤嶋委員、お願いいたします。

藤嶋委員 いろいろ考えたんですが、私たちがいろいろな会で区長さんにお会いすると、ああ、初めてお会いできた、お話しできてよかった、写真を一緒に撮りたかったというような女性の声が多いんです。ですから、各町会か何かに働きかけて、そこにお茶とスナック菓子ぐらいで、区長さんを中心にして、みんなで楽しく語り合うような会をして写真を撮ったりすると、こういう区役所関係に全く縁のない人たちにも知ってもらえるのではないかな。区役所ってこういうところだとか、そのようなことも知ってもらえるのではないかなと思って、提案してみました。

鈴木委員長 吉房委員、お願いします。

吉房委員 私は今の資料の4番目にあります。全部で10項目出したんですが、そのうちの

1つ、中原の誕生ということでお話をしたいと思います。中原の誕生は今から約1万年前、ここは海だったんです。海の名前は古多摩湾、それから溝口のほうは多摩川の河口ですね。溝口から向こうの上のほうは古多摩川。当時の古多摩湾の名残、二子玉川にある兵庫島という島が当時の湾の名残なんです。由良兵庫助という人が住んでおまして、それで今は兵庫島というんですが、何で私がこれを中原の誕生ということで取り上げたかという事は、ちょうど40周年、次は50周年をやるのではないかと思うんですが、中原の誕生がなければいろいろなものができなかったことを私は感じております。

先人の方々が今までの平穏無事なところをつくったということをお私は大いに言いたいと思ひまして。古多摩湾の岸は潮干狩り、こっちは田園調布の向こう側、古多摩湾のちょうど湾になるんです。それで、先ほど見通しのところが多摩川の河口、今から1万年前の現状がそういうことでございます。

何で私がこれを知っているかといいますと、今から58年前、私は中原小学校、当時は尋常高等小学校ですが、出ておまして、私がちょうど23歳のときに、すっかり忘れていたんですが、先生から、吉房、歴史をやらないかと言われたんですが、その先生は、当時は私たちが小学校のときにいろいろと土地の歴史を教えてくれたんです。そういう意味合いで何か自分もそういうことをやりたいなと思ひまして、今の丸子橋がありますね。多摩川の渡しから小杉の十字路までを当時の村のいろいろな文献を見て、また先生の教えなんかを見て、そういうことを学びました。それで中原の誕生がなければ現在の中原はないということで、その当時、1万年前の多摩川、中原はこういう状態だったということでちょっと今時間をかりて話したわけです。

10項目出したんですが、その中でこれが一番、中原の誕生で、今回の40周年記念に当たりまして一番役に立つのではないかと思ひまして出した次第でございます。

鈴木委員長 中原区というと、新しい区というイメージが大きいんですけども、今の吉房委員の話からも、1万年前からもう既にここはあったというようなことでしたね。大体この辺も、古多摩川の話も吉房委員に我々いろいろ教えていただきたいなどは考えておりますが、これをどのように40周年に具体的にさせていくかというのはとても難しいお話かなとも思っております。

それでは、川連副委員長、お願いいたします。

川連副委員長 私は一番簡単な方法を考えまして、区制40周年記念音楽祭をやったらいいのではないかと思ひました。これは各企業もいらっしゃいますし、今度11月3日でしたか、エポックでまた吹奏楽コンサートがあります。私もこれはずっと気に入っておりますけれども、本当にすばらしくて、こういうことをやれば区民の方も大勢来てくれるのではないかと思ひました。

それで、私の意見にプラスして、これはできればそうしたいなという考えなんですけれども、先ほど寺岡委員が言いました地域産業に対するニーズを把握してもらいたいとい

う、何か中原区でできる産業も展示して、区民の皆さん方に知ってもらいたいものではないかと思いました。

吉房委員の40周年記念としてのカプセルの設置、記念樹を植えるとかがありますけれども、こんなものもやっぱりおもしろいのではないかと思います。

松本委員の意見「なかはらの未来像」作品展として区内小中高校生を対象に絵画、作文、標語募集なんていうのもプラスできたらとてもいいのではないかと思います。

鈴木委員長の案でございますけれども、これも非常に難しそうだと考えますけれども、こういうのもプラスしたら私はとてもすてきな記念になるものができるのではないかと考えております。

鈴木委員長 本当はこの1巡目で皆さんの意見を賜りたいんですが、時間の都合上、もうお一方、お伺いしてからいきたいと思っております。

村山委員、お願いします。

村山委員 私は、40周年を記念して中原区版の写真の絵はがきをつくれればよろしいのかなと思いました。区民会議の委員が、それぞれが一押しを写真におさめて、絵はがきをつくと。よそから転入してくる方もおりますので、そういう方にその絵はがきをお渡しするというようなことで、40周年記念絵はがきをつくれればいいのかと考えました。

鈴木委員長 ただ、「区民会議委員一人一万円の寄付金を原資とする」というところでちょっとぎょつとしておりますけれども、写真や絵はがきを刷るって結構費用面にかかるので、これも再考の余地があるかなと思いました。

まず、今6人の方にご意見をお伺いしたんですけれども、資料3-1は皆さんからいただいた意見。さっき川連副委員長がほかの方の意見も言ってくださいましたけれども、資料3-2ではジャンルごとに分けてございますので、資料3-2につきまして事務局からちょっと説明をお願いできないでしょうか。よろしく申し上げます。

事務局 今、鈴木委員長からお話しございましたように委員の皆様からたくさんのいろいろな意見を出していただきまして、それを資料3-2で類型別にちょっとまとめさせていただきました。これにつきましては、石塚計画デザイン事務所からご説明させていただきます。お願いします。

石塚計画デザイン事務所 それでは、資料3-2の説明をさせていただきます。これは取り組みの類型別に整理し直したものです。テーマを取りまとめたり、複数のテーマ、目的を実現することもできるかもしれないということから、取り組みの類型別から整理し直したのになっております。大きくは6つの類型に分けております。左のほうがイベントとなっています。右のほうは記念碑、記念像等、グッズをつくること、4つ目が施設等の整備、誘致をすること。5つ目はメッセージ、啓発活動を行うこと、6つ目は調査、研究というような大きく6つの類型に分けております。

では、取り組みの詳細をご説明させていただきます。

イベントの中でもさらに6つに分けておりました、1つ目はシンポジウムになっております。市民報告会のような機会にシンポジウムを開催し、講演会や意見交換会を設けて、大きく変化する町のコミュニティ形成や区民が一体感を持てるような意見交換をするような目的のものを開催する。もう1つ記念シンポジウムの案が出されておりました。40周年を振り返ることと未来のこと、今と昔を振り返るようなパネルディスカッションや話を行う。それから、古老や小中学生とも意見交換をしつつ、夢を語ってもらうような内容はいかがかというような内容がありました。

次に、イベントとして、音楽会のアイデアが出されております。中原市民館を利用した区制40周年記念音楽祭、記念事業として有名なバンドや歌手を呼んだ記憶に残るイベントを実施するような話が出されております。

次に、大きく交流イベントというふうにまとめましたが、夏祭りなどを利用した交流の場の提供、もしくは中原区民館で学校や企業を招待したイベントを開催しつつ、区民会議を知っているかどうかのPRのキャンペーンを実施するというアイデアが出されております。3つ目は、そのようなイベントの際に、安心・安全のまちづくりというテーマを盛り込むようなイベントをあわせて行ってはどうかというアイデアです。区長が各地区に出向いて対話を持って、写真を撮りながら交流会を行うようなアイデアが出されています。展示系ブースや出展系ブース、ステージ系ブースなど、1つのイベントの中で中原の歴史・未来図、区民会議の紹介、子育てに関する情報提供や行事などの情報提供を行う展示系ブースと、飲食店などを行う出店系ブース、音楽イベントのステージ、体操などもあわせて行うような複数のものを盛り込んだイベントを行ってはどうかというアイデアです。交流イベントの最後アイデアとして、ミニイベントとして、町内会など細かなところに出向いて健康チェックや健康食の試食などを行うような地域に根差したイベントを行ってはどうかというアイデアが出されておりました。

次に、作品展というようなアイデアとして、区内小中高生で「なかはらの未来像」作品展をしてはどうかということ。

地域産業についての住民と事業者の相互理解を深めるような展示や販売会をしてはどうかというアイデアがありました。

イベントの最後として、避難訓練、防災講座として、町内会単位で避難訓練をしたり、防災ガイドブックを配布、ぼうさい講座を行ってはどうかというアイデアがありました。

次、右側に行きまして、記念碑、記念像等としては区の花パンジーを生かしたモニュメントを設置してはどうか、記念カプセルを設置してはどうか、記念樹を植えてはどうかというアイデアがありました。

次に、グッズとして取りまとめた中では、絵はがきをつくってはどうか、中原のうた第2弾として中原音頭を作成してはどうか、もっと中原を知るための冊子を発行してはどうかというアイデアが出されておりました。

4つ目は施設等の整備、誘致というアイデアで、飲食店、野球場の整備、自転車専用道路、町医者誘致などを行ってはどうかというアイデアです。

5つ目はメッセージ、啓発活動として、向こう三軒両隣の思いやりの精神をはぐくむような啓発活動を行う、災害時の安否確認や救出、避難誘導を行う方法を考えるということです。それから、あいさつや笑顔あふれる町にしていこうというようなことを啓発していく。現在住んでいる人たちが愛着心を持つような快適な場所、中原区がいい場所であるということを再認識してもらうこと。子育て支援の活動をもっと周知するという事です。

最後に、調査、研究として、火災報知器の設置と点検、もしくは中原区の誕生についてもっと知っていくような研究をする。今後の人口のふえる展望を考えつつ、子育て応援体制について考える。最後に、中原区の50周年を目指して、実態を把握して、これから事業を展開していくための各種統計データを取りまとめてはどうかというアイデアが出されてきました。

鈴木委員長 皆様の意見をこのように類型化して、ジャンル別に分けていただきましたけれども、皆様のご意見を伺いたいと思います。

青木委員、いかがでしょうか。

青木委員 中原区のこれからというか、あるいは再開後の姿ということで、いずれも明るく暮らしやすい安全・安心なまちづくり。現在、核家族化の進行とともに、隣は他人、いわゆる向こう三軒両隣意識が希薄になっています。直下型の地震の発生が危惧され、災害時の安否確認とか、救出とか、避難誘導をいかに無理なく行うかということを考える必要がある。これは特に急ぐのではないか。震源地が東京湾の場合、あるいは陸地の場合、どこに避難するのか、具体的なシミュレーションが必要だし、帰宅難民が発生した場合、町会・自治会はどうするのか。あるいはそういう人たちは行政で面倒を見てもらうとか、いろいろ急がなければならない問題がある。

再開後のあり方としては、教育とか、文化とか、福祉とか、生活環境、あるいは組織としての町会・自治会、あるいは社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会等、バランスがとれたまちづくりが必要。

40周年の事業として区民がいっぱい集まる催しとしては、やはり記念事業として、有名なバンド、あるいは歌手を呼んで記憶に残る、気も心も明るくなるようなイベントが必要ではないかということで、提案いたしました。

鈴木委員長 今の青木委員のお話はジャンル別になるとイベントということになります。先ほどの類型化、ジャンル別の提案も踏まえまして、皆様のご意見をもう少し伺いたいと思います。

富岡委員、いかがでしょうか。

富岡委員 今アンケート集計、類型別にまとめていただきまして、とてもよくまとまっていると思います。

私はちょっと思いつかなかったものですから、心の問題として、ただいま世の中がギクシャクしておりますよね。そういうことで、昔、我々が小さいころは、どんどん世の中が希望に燃えて頑張るといような時代でございました。その後、豊かになってきましたが、道徳とか心の問題がととても貧しくなりました。そういった折、現在また世の中がギクシャクしてきております。心が貧しいことが原因の1つと考えます。経済的、また、肉体的、精神的、人間関係、いろいろあると思いますが、向こう三軒両隣、お互いさまの精神、思いやり、いたわりの優しい心が一番大切な心根だと考えております。東日本大震災で未曾有の被害を受けたときに昔の気持ちが、やはり助け合いの精神とお互いさまといようなことがまたよみがえってまいりました。これは本当にこの先、ずっと大事なことでございます。そういうことで私は心の問題を取り上げさせていただきまして、いろいろあいさつ運動とか、交流会だとか、イベント等々できずなを深めて、相手を尊敬するいような優しい心が大事ななと思つて、ほかのことは思いつかなかったんですが、ここに書かせていただきました。

鈴木委員長 矢野委員、いかがでしょうか。

矢野委員 私は漠然とした内容でしか書かなかったんですけども、ここにありますように変わりゆく中原というテーマの中で、先ほど40周年ということでは写真集を用意されているというお話を伺ったんですが、ちょっと身近な話で恐縮なんですけれども、この隣がもう既にマンションが建つ計画になっています。45階建て、450戸のマンション。もう1つは13階建てで154戸の賃貸ということで、野村不動産様がもうプレス発表した資料だからよろしいかと思うんですけども、私の会社へ野村不動産の方が来て、こういう形になりましたと。これとは全然別件、ファンドのことで来たんですが、もう既にそういう開発がこの周りも非常に進んでいます。南武線の向こう側には10階建て程度のマンション、個人が持っていた土地を賃貸マンションに切りかえるということで、私が知っている限りでも10階前後ぐらいのやつですか。もう3、4棟建っております。先ほど人口29万人はミスプリで、23万人という話だったんですが、二、三年もしないうちに29万人というのは、市長のお話ですけども、転入の数がものすごく上がっているということと、加えて出生率も非常に中原区は高くなってしまつて、今テーマにしています子育て支援といものもなかなか施設補充ができなくて、大変なことかと思つます。隣のところは保育所もつくるとい中身になっておるんですけども、そんなように変わっていく状況がまだ区民の皆さんといつか、私らもわからないものですから、そこら辺の将来的な開発計画等々が区でおわかりになりましたら、それを40周年の写真集の後ろに、CGでも結構かと思つんですけども、それぞれの地域、場所がこのように変わるのではないかといようなアバウトなお話かもしれませんけれども、これからの10年、20年がどうなのかといことを何かアピールできたらと思つています。

当然ながら子育て支援もどんどん必要とされるわけですけども、先ほど野球場の建設

の話もありましたが、5～6年もしないうちに今度、小学校を含めて子どもが活動できる場所が必ず不足してくる。現在でも小学校はもう既にパンク状態で、仮設の建物を建てたり何かしているという話も聞いております。新しい小学校もできるという話も聞いているんですけども、そこら辺の行政を含めた準備もちゃんとやっておりますというようなことをこの40周年記念の写真集にプラスアルファとしてぜひ載せていただければなと思っております。

鈴木委員長 精神的なご意見、ハードの具体的な意見等、たくさんの意見が皆様から出されておりますけれども、もう少しお聞きしたいと思います。

岡本委員、お願いします。

岡本委員 私がいつも思っているのは、未来像とはどういうものか。今ここはどんどんマンションがふえていますよね。そうすると、これから何年先にはどうなるのだろうというような不安というのか、そのようなものもすごくあると思うんです。高齢者だけになってしまったというマンションも結構見えていますので、これから発展させていくためには、どういうふうにしたらいいのかという未来像を子どもたちに描いてもらうことはすごく楽しいかなということがあったんです。

先ほど富岡委員から心の貧しい人ということが出ていましたよね。私は、笑顔のあふれる町とか、安心してこれから暮らせる町とかにするためにはどうしたらいいんだろうと考え、健康ということが私たちは一番だと思っています。健康があってこそ、皆さんいろいろなことができるのであって、私たちはいつも食育ということでいろいろなイベント、行事を行っております。今回、反町委員と協力させていただくウッドデッキでの行事でも小さいお子さんに、マカロニあべ川とか、いろいろなおやつ的なものを出し、小さいときから健康に気をつければ、年をとっても、心豊かに暮らせるんだなというようなことを根底に持ってもらいたいと思っています。

防災、避難訓練ですけれども、私たちもいろいろやっているんですけども、まだまだ徹底していないなというようなことがあります。町会で防災行動をつくったり、いろいろなことをしていけば安心した町がつけられるのではないかなというようなことをちょっと考えました。

鈴木委員長 板倉委員、お願いします。

板倉委員 私の分類は調査、研究に入っているようなんですが、再開発が大分進んでまいりまして、非常に若い人たちがふえてきている。私もそうだったんですが、何となく川崎都民の方々が多くなりそうだなと。そういう中で、少しでも若い人たちに中原区を知ってもらおうということで、運営部会の際には連続講座というのを提案したんですが、どうも連続でやるのは難しそうだというのと、若い人たちを普通の日に集めるのも難しそうだという話がありましたので、これは方向を変えまして、皆さんに中原区を理解していただくための基礎データ。いろいろ人口の推移だとか、例えば川崎再生フロンティアプランの

中には中原区のこれからどうするというのが入っていますし、市の緑化計画の中にも中原区のものを取り出されていると。縦割りと言っては悪いんでしょうけれども、中原区がそれぞれ取り上げられてはいるんですよ。ところが、それは1つ1つ読まないとなかなか理解できないということで、その辺の中原区のデータだけを集めることで冊子ができないかな。きっと難し過ぎて読まないなんていうお話もあるかもしれませんが、できたら、よく見て、これから10年先をどう考えるかという基礎データに使えるようなものがつくれたらいいなという提案です。

鈴木委員長 稲富委員、お願いします。

稲富委員 いろいろお話を聞いていて、私、時間がなかったと言いつけてはいけませんが、すごくさらっと書いたので、イベントという簡単なことになっているんですけども。委員の皆さん方がおっしゃるのは、やはりこの中原をよく知り、いい町にしていきたいというのが1つのキーワードにあると感じていまして、先ほどの中にも幾つかその言葉があったと思うんです。今、人口が増えていますし、転出入も多いということを以前区長からもお聞きしておりました、そういった状況の中で引っ越しというとやっぱり春が多いと言われます。今、桜まつりがありますけれども、出会うには、来て、すぐに桜まつりに来るかというのと、引っ越して、少し時間がたって、落ちついた頃にそういった集まる場があればということで夏としてしまっただけで、決して夏に何かしようということではなくて、あと区民会議として祭りを開こうと言っているのではなくて、そういったものを活用して中原の歴史とか、特徴とか、さっきあった未来像とか、コミュニティとか、まさに生活を感じるような、その中できっかけとして提供できるようなものがあればということで区役所と書いてしまったんですけども、区役所ではなくて、そういうことを感じ合えるような触れ合いの場所をつくれませんか、区民会議のメンバーでいろんなものを組み合わせることで実現できないかなと思っておりました。そういう意味で、先ほど吉房委員からあった、もともとここはどうだったのかという始まりのことというのもおもしろい話だと思いましたし、これからどうなっていくかという再開発の情報を提供するのもおもしろい話だと思しますので、ここにある意見を融合して、新しく来た人と前からいる人が触れ合える環境、そういう場がつけられるような40周年の企画になればいいなと感じています。

書かなかったんですけども、以前も1回、中原はすごく歴史のある町ですので、お宝がいっぱいあるから、「なんでも鑑定団」を使ってぱっとやったらどうかというのも言ったことがあるんですけども、例えばそういうのを取り入れてみるのもアピールとしてはいいと思います。そこで集まって話をして、そのときに感じられる、そんなキーワードでこの取り組みをやれたらなと思って見させていただいておりました。

鈴木委員長 松本委員、お願いします。

松本委員 私は今期で3期、区民会議の委員をやらせていただいて、来年で一応任期は終

わるんですけれども、そういう思いも込めて、せっかく市民報告会を行うのであれば、これをシンポジウム形式にして変わりゆく中原のコミュニティについて勉強する機会。また、きょうも傍聴の方がすごく寂しいんですけれども、もっともっとみんなが、これは委員に任せておけばいいではなくて、自分たちも行って話を聞かないとどうにもならないというような感覚を持っていただくような取り組みが必要かと思ひまして、提案させていただきました。人とのつながりとか、ふるさとを愛する気持ちとか、そういうものもやっぱり持っていただくような機会になればと思います。

もう1つの提案は、町のポスターを見ても、私たち、いつも悪いことをしてすみませんと感じるようなポスターばかりなので、そうではなくて、子どもたちに夢を見てもらって、ああ、私たちも頑張らなくちゃなというような、元気をもらえるようなポスターを中原区に飾って、子どもも自分の町がこうやって変わっていく楽しみがあるなというような夢をここで描いていただくような取り組みがいいのではないかなということで提案させていただきました。

鈴木委員長 今、小中学生という意見も出ましたので、川崎委員、いかがでしょうか。

川崎委員 ここにはもう本当に簡単なことしか書いていないんですけれども、先ほど来、皆さんから出ているような子どもたちが未来に希望を持てるようなものが何かできるいいのではないかなと思っています。特に最近の傾向というか、近年の傾向として、若者たちが消極的な傾向にあるというデータが出ていますので、一部の人たちはすごく元気なのかもしれないんだけど、そうではない人たちがどうしたら自分たちもその輪の中に入っていけるんだろうかという取っかかりをもうちょっと工夫していかないといけないかなと思ひまして、そこら辺は書けていませんが、そんな思いでいますので、40周年というのをきっかけに、またその先の50周年を目指してではないですけれども、みんなが中原区に来て本当によかった、この町に生まれ育ってよかったと思ってもらえるようなものになっていくといいのかなと思っています。

鈴木委員長 さまざまな皆様のご意見をいただきましたけれども、皆様の意見が具体的にきちんと形になるように課題調査部会を設けるということで、その中で検討して、より一層具体的になっていけばいいかなと思ひしておりますので、まず、皆様の意見をこれで切らせていただきたいと思います。

イ 区民祭について

鈴木委員長 次に、区民祭へのかかわりについてということでアンケートを皆様にいただいたんですが、資料3-1と資料3-3まで、いろいろな意見が出ておりますけれども、区民祭に対するアンケートにつきまして審議をしたいと思ひます。

反町委員、お願いします。

反町委員 まず、かかわったほうがいいかというところについて、私はかかわったほうが

いいと思います。やはり区民祭というのは、先日無事開催されましたが、間違いなく中原区一番のお祭りであって、その中原区の40周年を祝うお祭りということで、かかわらない理由はないかなと思っております。ただ、どういうふうにするかというのは、いろいろなやり方が考えられると思うんですが、私の印象としては区民祭というのはずっと繰り返し行われてきた歴史みたいなものがあるって、仮に区制40周年だとしても、区民祭そのものを何か大きく変えたりとか、大幅に構造を変えるようなかかわり方というのはできないのかなと思っております。

区民祭では、私は、例えば40周年に特化したブースを持つとか、あるいはステージの時間がいただけるのであれば、やはりステージ上で広く周知をして、40周年ということを実感できるようなもの。そして、区民祭とは別の区制40周年に向けた私の提案につなげていけるようなPRができて、とりあえず区制40周年であることをお伝えできるような区民祭ができたらいいのかなと思っております。

鈴木委員長 区民祭に参加するというご意見でした。

大下委員、いかがでしょうか。

大下委員 私も反町委員と一緒に、区民祭にはぜひ参加するべきだと思っております。先ほど反町委員もおっしゃっていたとおり、中原区一の大きなイベントですので、また、先日、私もその中のテナントで活動させていただいていたんですが、結構こちらに出席されている委員の方々とごあいさつができたなどという印象があったので、まずは、私自身は催し物広場のテナントにいたんですけども、あの場をもう少し利用して、みんなで大きなテーマを持って参加するようなきっかけになればいいかなと。漠然としていますけれども、区民祭はコミュニティを図るとても有効な場所だと思っておりますので、ぜひかかわっていただけたらと思います。

鈴木委員長 杉野副委員長、ご意見はいかがですか。

杉野副委員長 私も区民祭には参加したほうがいいのではないかと。私はいつも思っているんですが、区民祭と福祉健康まつりとがまるきりお互いに、別物であるというような視点が感じられるのです。そういうのは非常に不幸なことであって。やっぱり協働していくということであれば、町会の問題でも、社会福祉の問題でも、これはもう福祉なんですよ。ですから、そういうことを考えると、福祉がいかに重要であるかということ。そういうことでは、町会の役員会の中でも民生委員はいますし、社会福祉協議会の方もいます。そういうところが一緒になっていけば、どこへ行っても、上へ行っても、代表になっても一体であるということを常に把握する。

私、町会でやっている、例えば災害時の民生委員、何か別々に動いているような感じがするんですよ。ここへ来て、はっきり言って、個人的に聞くと、私は町会のほうは関係ないですよというような民生委員が現実にいるということ。ということは、やはりお互いに協働できていない部分があることを強くいつも感じているんです。区民会議の皆さんが1つ

になれば、子育てでいかに行政と協働ができているかということ。子育て、子どもはかわいいですから。私もあるときはサンタクロースだとか、いろいろやっていますけれども、そういうふうなことがやはり底辺にあって、みんな幸せな気持ちになり、みんな寄ってくる。当然のことながら、保健師さん、保育士さんから全部寄ってくる。そういう中から、僕は協働が生まれてくるのだと思います。

したがって、ここで協働とは何かということをやはりしっかり考える必要もあるかなと思います。僕は、目に見えないように成長していると思います。協働に関しては。僕はもう感心しているぐらいです。ですから、そういうことをこれから続けていく。区民祭でも何でもどんどん出て、区民会議の中で話し合っ、区民会議というのはこういうものであるということを訴えていく必要があるかなと思います。

鈴木委員長 松原委員、いかがでしょうか。

松原委員 区民祭、もう長い間、参加させていただいておりますが、今年ほど賛助会費を集めるのに苦勞した年はないと思います。30周年のときがピークで、あとはだんだん資金が減ってきているような気がいたします。区民祭というのは何百万円もかけてやらなくてはいけないものなんだろうかと私は思います。といいますのは、1万円、2万円、3万円をいただいている事業主、商店主の方から、行っても弁当1つと手ぬぐいなんだな、あのお金はどこへかかっているんだろうというような質問を受けます。先ほど大下委員から意見があったようにアンケートを区民にもう1度、区民祭というの区民にどう影響を与えているのか、やはり我々はしっかり把握する必要があるかと思ひます。

33回が終わって思っただけですが、3年前に抽せん会をやめてしまったわけですよ。その抽せん会をやめた影響なのかどうかわかりませんが、閉会式ときにはもうほとんど人がいないんです。今回出し物のスケジュール的には非常にうまくいったんだろうと思ひています。最後に出し物がありましたよね。ああいう中で大勢の人が残ってくれたということが、ある意味では昨年と比較して非常によかったんだろうと思ひております。もう1度、区民祭はどうあるべきかということをやはりしっかり検討すべきだろうと思ひます。それと、何百万円もかけなくてはいけないのかと。中原の77町会から1世帯20円集まっていますよね。そういう中での区民祭のあり方、助成金のあり方、賛助会費の集め方をもう1度……。区民祭は今後どうしたら区民に拍手をもらえるのかというようなことを私は感じました。

鈴木委員長 区制40周年に関して、区民会議として区民祭にかかわりを持つか、参加するかどうかというアンケートから、ただいまの松原委員の区民祭そのものの根本的な、最初から振り返って見たらどうだ、もう1回考え直したらどうだという意見。それから、現状を踏まえた——我々には正直言っ、1世帯から20円出ているとか、どこから幾らいただいているのかということとはわからなかったんですけども、反町委員の積極的案を初めいろいろな意見が出ました。これは課題調査部会でとにかく審議してもらって、検討しても

らって、その上で一定の方向性に持っていくようなやり方しかないかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

4 課題調査部会委員の選任

鈴木委員長 それでは、何回もいろいろな問題が出てきて、ちょっと皆さんも臆しているかと思いますが、課題調査部会の委員の選出を行いたいと思います。

課題調査部会の役割につきましては、資料4にありますように、課題解決の必要な情報の収集や調査を行い、審議課題の取り組みをより効果的に発展させるために補完的な役割を果たすものでございます。皆様の意見を整理して、より掘り下げた検証や調査を行います。この部会の審議結果につきましては、次回の区民会議において報告されることになっております。

選出に当たりましては、区民会議条例施行規則第4条第2項におきまして、「部会に所属する委員は、委員長が区民会議に諮って指名する」と規定されております。既に副委員長には部会に入らせていただくことを最初的时候に確認しておりますので、課題調査部会の部会長として川連副委員長をお願いしたいと思います。ほかの委員につきましては、本部会の趣旨から見まして、今回の検討テーマである中原区制40周年、さまざまな意見が出ましたけれども、これに関心の高い方から、また、難しいけれども、ぜひやってみようという方から優先的に委員になっていただきたいと思っておりますので、まず、ご希望の方、やってみてもいいという方がございましたら挙手願いたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔大下委員、川崎委員、反町委員挙手〕

鈴木委員長 今3名の委員からご希望が出てございますが、課題調査部会、ほかにご希望の方はいらっしゃいませんか。いかがでしょうか、遠慮なく。区制40周年ということで、これだけの意見がこの資料で見えていますので、これをよりかみ砕いて、掘り下げて、とにかくいい方向に持って行っていただきたいと思っておりますので、ぜひ忌憚ない意見を述べていただきたいと思っております。今の3名の方以外にございませんでしょうか。遠慮なくお願いしたいんですが、いかがですか。

それでは、皆さん、遠慮していらっしゃるのかわかりませんが、規則によりまして、こちらから指名させていただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

鈴木委員長 PTAの代表として大下委員、若者の代表として反町委員、公募委員として川崎委員、子育ての代表として松本委員、公募委員として寺岡委員、まちづくり推進委員会の代表として板倉委員、若者の代表としてもうお一方、稲富委員を選出させていただきました。皆様、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり、拍手〕

鈴木委員長 それでは、課題調査部会ということでよろしくお願いいたします。

それでは、今、委員に選任された方は、この会議終了後、505号室に早速ですが、集まっていたきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

5 その他報告事項

鈴木委員長 それでは、皆さん、まだ意見も言い足りないと思いますが、時間も参りましたので、事務局からの報告を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局 鈴木委員長、ありがとうございます。大分時間もちょうどいい時間になってまいりました。

それでは、事務局から何点かご報告ということで、まず、企画課から、新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」第2期実行計画（平成20～22年度）の結果の評価内容がまとまって、現在広く市民の皆様からご意見をちょうだいしているところでございます。9月1日から今月の末までということでご意見をいただくような形で現在募集してございます。ぜひ区民会議の委員の皆さんにも忌憚のない意見をお寄せいただければと思います。そこに新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」第2期実行計画実施結果総括（抜粋）という冊子にはなっているんですが、その中にはこういった区民会議の取り組みみたいなものも入ってございますので、中身が細かくなるのでこれ以上はここでは説明いたしません。区民会議もこういった位置づけでやっておりますので、ぜひこういった評価結果をご覧になっていただいて、区民会議というのはこうあるべきだというような忌憚のない意見をちょうだいできればと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局 地域保健福祉課から「歯とおどろく！ H A H A H A 教室」というリーフレットについて紹介させていただきたいと思います。

こちらのリーフレットですが、中原区健康づくり推進会議でつくったものでございます。こちらの会議につきましては、区内の健康課題を考えて、討議、検討していく会議でございまして、その中で22、23年度の課題としまして歯科保健ということで検討してまいりました。その検討の中で、市民の方に歯科保健の大事さを伝えるというリーフレットをつくってきたものでございます。こちらのリーフレットにつきましては、歯科医師、地域の方、職員の歯科衛生士等が協議をしながらつくったものでございます。対象はお子さんからお年寄りまでとなっております、イラスト等を入れまして、わかりやすいリーフレットとして作っております。

歯科の部分では、歯肉炎とか歯周炎が病気の中では一番多い病気となっているということでございまして、その歯科の病気の中から一番後ろの面を見ていただきますと、生活習慣病にも関係あるというようなことで入れさせていただいたものでございます。こちらのリーフレットにつきましては、市内の幼稚園、小中学校の生徒向けに配布させていただいたものと、医療機関等についてポスターを掲示していただくという形でポスターを5000枚、リーフレットを2万枚つくって、市内の各所に配布をさせていただきました。こちら

につきましては、そのほか市政だよりとか市のホームページを利用して広報させていただいて、歯科保健の大事さについてこれから広報させていただきたいと思っております。

6 閉会

鈴木委員長 大変重いテーマを短い時間の中で審議しましたので、皆様、もっと発言したかったという方もいらっしゃると思いますけれども、大変申しわけございません。おかげさまで一通り本日のテーマを終了させていただきました。皆様のおかげで円滑に終わることができました。副委員長ともどもお礼申し上げます。ありがとうございました。（拍手）

それでは、ここで終わらせていただきます。

事務局 それでは最後に、ちょっと事務局から。課題調査部会の日程につきましては、これから調整させていただきますが、第4回目、今度の区民会議でございます。日程につきましては平成24年、来年の1月18日（水）午後2時からで、場所が、この会議室、つり天井の工事が入ります関係から、次回は中原消防署、その4階の講堂を予定してございますので、またご案内のときに案内を入れさせていただきます。次回は、第4回目の区民会議は1月18日（水）午後2時から中原消防署4階の講堂で開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

これで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

午後3時51分 閉会